

○知能のこと

- ・抽象的思考能力 ・学習する能力・経験から獲得する能力 ・知能検査で測ったもの
- ・目的的に行動し、合理的に思考し、能率的に環境を処理する個人の総合的・全体的能力

いろいろな力のあつまり・置かれた場面でこなす力



知的発達に遅れがある＝生活に困難が生じやすくなる

○知能検査とは

- ・知能を数値化するものー知能検査
- ・数値化されたものー知能指数 (IQ)

検査：ビネー式知能検査、ウェクスラー系知能検査 (WISC-V)、グッドイナフ人物画知能検査 (DAM)

ー検査によって“数字”の考え方が異なる 何歳ぐらいか？何番目ぐらいか？

100 を基準 (平均) として、どの位置にいるか (9 歳の子が 9 歳程度の知的発達なら、IQ100 となる)

○知的発達症

- ・診断基準

有病率＝約 1% (国により異なる)

男女比 軽度 1.6 : 1 重度 1.2 : 1

1. 知的機能の落ち込み

- ・知的発達の遅れー知能指数 (IQ) の低さ (70 ないし 75 未満)

2. 適応機能の落ち込み 適応機能：日常生活を送る力

①概念的 (読み書き・数字・計画立て) ②社会的 (コミュニケーション・判断) ③実践的 (着替え・お金)

3. 18 歳未満 (発達期)

- ・重いほど小さい頃から明らかになる ・見逃されている事も少なくない

※全てに当てはまった場合に診断される

○知的発達症の特徴

- ・4 つの重症度に分けられる ※IQ のみではなく、適応機能も含めて判断する

	IQ	概念的	社会的	実践的	その他
最重度	20 未満	感覚や物理的なもの	直接的な接触が主	ほぼ全介助	言葉・シンボルを介することが難しい
重度	20～35	文字・数などの理解は難しい	言葉の発話・理解ともに限定される	ほぼ援助と監督を要する	ジェスチャーや発声あり
中等度	35～50	文字・数はゆっくり獲得	単純なコミュニケーションは十分	長期間の指導をへてある程度自立	
軽度	50～70、 75	文字は獲得	十分だが未熟・固定化	自立だが高次の判断には苦慮	騙されやすい。冗談がわからない。

- ・境界、グレーゾーン：正式な診断や支援対象ではないが、障害に類した困り感やつまづきが多い
- ー気づかれづらいが、就学後や就職後に困り感が増えることが多い。

○治療と予後

- ・障害そのものの改善ではなく、適応機能の向上を ・本人のみならず家族支援も大切